

個別の指導計画

記入例

様式2 (指導に関する記録)

フリガナ 児童生徒名	指導時間	作成日 平成 年 月 日	校長 前期末				
作成者		指導場所:					
日本語の力	<ul style="list-style-type: none"> 日本語の力は、指導者個人の主観に偏らない複数人による多面的な見方での判断が望ましい。 記入の際には、「学習目標例」(日本語指導が必要な児童生徒を対象とした指導の在り方に関する検討会議)が参考になる。 日本語の力は「話す・読む・書く・聴く」の4技能の観点から記入する。その際、他の人に伝わりやすいものにするために、ステージと学習目標項目(a, b, c...)も併記したい。(例: 2-b, 4-eのように)日本語と教科の統合学習を行う段階であれば、教科学習に参加する力についての記入も必要である。 		日本語テスト結果				
			1年生語彙調査				
			DLA				
			【話す】				
			【読む】				
【書く】							
【聴く】							
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> 「日本語の能力に応じた指導プログラム例」(文部科学省)の「大目標①～③」を参考にして記入すると分かりやすい。 		<ul style="list-style-type: none"> 1年生の語彙調査を記録する。 DLAを実施した場合には、結果の記録を残す。 				
日本語指導プログラム	4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月						
「特別の教育課程」による日本語指導	<ul style="list-style-type: none"> 「外国人児童生徒受入れの手引き」(文部科学省)P26～を参考に、5つのプログラムの組み合わせによって指導期間を記入する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ①サバイバル日本語 ②日本語基礎 ③技能別日本語 ④日本語と教科の統合学習 ⑤教科の補習 </div> ⑤のみの記入は望ましくない。 						
	<ul style="list-style-type: none"> 「学習目標例」(前出)を参考に、対象児童生徒の日本語能力に応じた指導目標を記入すると分かりやすい。 1時間ごとの細かな計画ではなく、中・長期的な目標を掲げる。 言語の4技能がバランスよく指導できるような目標を設定する。 		<ul style="list-style-type: none"> 具体的な指導内容について記入し、評価することが望ましい。 「④日本語と教科の統合学習」では、教科の単元名などを記入し、学習の様子を記すとよい。 授業中の観察や発表、スピーチ、作文などから総合的に評価する。 相対的な評価ではなく、個人の意欲や努力、到達度から個人内評価を行う。 日本語の評価の視点については、赤の下線部を引いておくとう分かりやすい。 				
	<ul style="list-style-type: none"> 毎日の生活に関することを頻度の高い単語や定型表現を使って話す。(9月) 分ち書きで書かれた短文を音読する。(9月) 音節の少ないひらがなの文を書く。(9～10月) 頻度の高い単語や定型表現、基本文型などを使って、3～5行程度の生活日記を書く。(10月) 			<ul style="list-style-type: none"> 毎時間の終わりに、視覚情報が多く易しい表現の絵本の読み聞かせを行った。<u>興味をもって聞き、好きな場面や繰り返しの表現などを言うことができた。</u>(9月) 「はなしたいな、ききたいな」では、簡単なモデル文を参考にして短文づくりができた。(10月) 			
上記以外の指導・課題							
	4月	5月	6月	7月	(8月)	9月	前期合計
取り出し指導の指導時数							